

事業概要	体験型空き家活用「solar crew」は「地域課題」だった空き家を、防災機能(耐震シェルターや太陽光発電設備など)を備えた「地域課題を解決する防災拠点」へと進化させる取り組みです。会員と地域住民が協働し、空き家をDIYで再生させます。拠点をDIYする「つくる責任」や完成した拠点を利用する「つかう責任」を通し「住み続けられるまちづくり」を構築します。また、交流人口や関係人口の創出及び平常時に構築されたコミュニティが災害時には共助や単身世帯の安否確認へとつながり、地域レジリエンスの向上を目指しています。
部署	—
所在地	〒121-0831 神奈川県横浜市磯子区中原4-1-30
連絡先	(電話番号)045-550-7012 (E-mail)contact@solarcrew.jp
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	地域課題である空き家を、防災機能を備えた地域循環共生圏の拠点化とし、「地域課題」だった場所で産官学民が協働し「更なる地域課題を解決する」ことを目指しています。 また、地域住民やイベント参加者に対するまちづくりの担い手としてや地域課題に取り組む当事者としての意識改革、各地域の拠点(空き家だった場所)がつながることにより、地域課題解決への糸口をみつけ、地域間の連携を創出し、地域の課題をその地域だけでなく、各地域が資源や特徴を活かした双方の課題解決や資源の活用を図ります。

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション

分野 脱炭素／サーキュラーエコノミー／健康・福祉／防災／その他(空き家活用)

【2 脱炭素】

拠点に防災設備として太陽光発電設備を導入することで脱炭素及び停電時の地域の電力スポットとなります。災害時の携帯電話の充電を求めた密集を回避し、感染症予防にもなります。横浜市磯子区の拠点で使用している電力は再エネ100%の電力で賄っています。

【4 サーキュラーエコノミー】

オーナーの思い入れのある空き家を借り、リフォームや補強などを行い地域に開きます。またリフォーム時には地域やcrew(会員)が参加しDIYをします。工事や完成した拠点利用での交流を通し自分たちが使う拠点や防災拠点なる場所を自分たちでつくることで、地域課題に対する当事者となっていることを意識改革なども行っていきます。

【6 健康・福祉】

コミュニティスペースとして開放しているため、地域ケアプラザの協力を得ながら、地域で活動する高齢者団体の活動の場や地域ケアプラザからご紹介いただいたイベントスペースとしても利用していただいております。また新型コロナウイルス感染症が拡大し、高齢者の集まる場や機会が減少しました。これにより、人との交流機会が減った高齢者の認知症の悪化が問題視されました。そこで横浜市磯子にあるYワイひろばにて、感染症拡大防止対策を行いながら大手通信会社と協働し、高齢者向けスマホ講座を開催し、LINEやYouTubeなどの使い方をお伝えしてきました。

【7 防災】

拠点には耐震シェルターや太陽光発電設備を導入します。災害時の町の小さな避難所や電力スポットとなります。また普段、拠点で培われたコミュニティが災害時の単身世帯の安否確認や共助などへつながります。

【9 その他(空き家活用)】

空き家を活用することで衛生面や景観、倒壊など危険性を防ぎ、イタズラや放火などの犯罪に利用されることを防ぎます。地域にとって暗いイメージであった場所を、防災機能を備えたコミュニティの場として活用することで、新しい交流が生まれ、地域レジリエンスの向上につながると考えています。

ローカルSDGsの実現
に貢献できるソリュー
ション

◆環境面

- 資源・素材の改善等により、省資源、水使用量削減等…事業を開始して以来、会員を通してさまざまな情報を収集している時期なので、今後この課題に取り組む予定でいる。
- 3R(リデュース・リユース・リサイクル)など資源有効利用…「空き家」を活用し、活動拠点としている。現在、8拠点(神奈川県内に7拠点、東京都内に1拠点)を展開している。
- 脱炭素・地球温暖化対策…拠点に太陽光発電設備を設置し、そこで発電したエネルギーを使用している。災害時には携帯電話の充電などのために発電した電力を地域に開放する役割を担う。横浜市磯子区にあるYワイひろばで使用している電力は再生可能エネルギー100%を達成している。
- 生物多様性対策…各拠点周辺でのゴミ拾いを行う予定でいる。拾ったゴミから見えてくる環境問題や汚染問題について考える機会を持つことで、会員及び地域住民の自分が住む街の美化や自然保護に対する意識改革と行動を促す。
- 有害物質、環境汚染物質等の発生抑制…空き家の再利用により、建物解体による廃棄物の削減に貢献。
- 自主行動として環境への取組…拠点に設置している太陽光発電設備で発電した電力の使用、拠点周辺の雑草除去やゴミ拾い。
- その他の環境面での訴求…空き家を拠点とすることでそれまで管理の行き届かなかった建物内部や拠点周辺の整備をオーナーに代わって行い、空き家の問題点ともなる衛生面の管理をしている。

◆社会面

○様々なステークホルダーとの関係性…

外部から招いた複業チームを結成し、各々の強みを活かしてsolar crew立ち上げ、運営している。持続可能な取り組みとするため、solar crew内でキャッシュフローを完結させるスキームを見出し、ビジネス化した。会員は法人会員と個人会員の2種類あり、法人会員は本業を通じた地域貢献や地域課題の解決、SDGsへの取り組みを掘り下げ、アクションにつなげることを目的とされている。個人会員はDIYに挑戦したい方、地域貢献や地域課題解決に関心がある方、複業に興味がある方などが参加している。solar crewは拠点づくりである「DIY」や各拠点を利用したイベントをツールに、会員同士や地域の方との交流を図る仕組みで、交流人口から関係人口の創出の起点となっている。また各地域の行政や町内会と連携を行い、地域に根差したコミュニティを形成している。拠点によって大学生や障がい者の方などを招き、共に場作りを行っている。各拠点はリモートワークの拠点として利用でき、働き方改革や新しい生活様式に沿っているため、サテライトオフィスを検討している企業や個人事業主の方が一部入居している。空き家のオーナーには固定資産税と多少の額を賃料としてお支払いしているため、金銭的負担の軽減になっている。

ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション

○行政施策との関係性…

空き家の活用を通して、地方創生及び関係人口の創出を行うため、秋田県の湯沢リビングラボとの交流を図っている。今後は全国で拠点展開をしていくが、各地域に合った活用を進め、更なる地域課題の解決の場や地域活性化の場としてコミュニティ形成を行っていく。過去には神奈川県が主催するスタディツアーの訪問先となったり、サステナブル・ブランド国際会議において企業と自治体の連携事例として墨田区と共にセッションを行った。

◆経済面

○経済的波及効果…

空き家のオーナー様は思い入れのある空き家を手放したり壊すことなく活用することができる。また固定資産税額以上を賃料としてお支払いするため、金銭的負担の軽減となる。会員とともにDIYにて拠点作りを行うため、工事費用の削減が可能である。しかしながら、簡単な作業のものから難易度の高い作業までを提供することで、参加者のsolar crew外でのDIY意欲やスキルの向上につながる。更には活動中のコミュニケーションにより交流人口及び関係人口へと展開し、複業につながることを期待される(実績あり)。法人会員や協賛企業などの商品を使用または展示することで拠点がショールーム代わりとなる。また一般的に流通できない資材を提供してもらうことで双方へのメリットが生まれる。solar crewによる空き家の活用は既存の空き家活用と違い、つくる過程を大切にしている。DIYを通し、会員や地域住民自らが拠点を作り上げることによりSDGsゴール12「つくる責任」を通しながら、SDGsゴール11「住み続けられるまちづくり」の達成につながっている。

○拠点数は前8拠点あり、その他空き家活用に関するお問い合わせを受けている。solar crewの市場は各地に存在し、社会問題となっている空き家が対象であり、各メディアにて紹介されるたび、空き家オーナーから活用に関する問い合わせがくる状況である。今後の空き家問題について、2033年には3軒に1軒が空き家になるというデータが発表されているが、その深刻さに伴い、このような空き家の活用に関する相談は増加すると見込んでいる。また災害時には防災拠点としての活用が期待できるため、拠点数が増えるごとに、多くて困る空き家が少なくて困る防災拠点となり、その数も比例して増加する。

URL

<https://solarcrew.jp/>

上記ソリューションを提供できる地域について

全国

※現在は神奈川県、東京都を中心としており、順次拡大予定です。

自者の特徴	<p>◆地域との協業の実績 神奈川県が主催する多様な主体の協働・連携を促進するスタディツアーの訪問先として横浜市内の拠点が対象となりました。また各エリアとも役所の担当部署や自治体長などと共に町の魅力や課題、取り組みに対する意見交換を行っています。サステナブル・ブランド国際会議2022横浜では企業と自治体による連携事例紹介として、墨田区と共に空き家活用に関するトークセッションを行いました。また墨田区の拠点を活用し、千葉大学と共に拠点づくりに取り組んでいます。</p> <p>◆提供ソリューションの差別化及びセールスポイント 空き家を活用し、コミュニティスペースやコミュニティカフェを運営しているビジネスモデルはありますが、solar crewのように地域の課題を掘り下げ、その課題を地元起業と共に解決し、法人会員へ展開し、売り上げをたてるビジネスモデルは他にないと考えております。弊社では「つくる体験」「つかう体験」「解決する体験」を提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none">• つくる体験…空き家を利用してDIYの体験ができます。プロの指導の下、リフォームやリノベーションの一部をcrewと地域住民と一緒にいきます。作業は自宅で自分ができるような簡単な作業から難易度の高い作業まで、スキルレベルに応じて体験できます。• つかう体験…遊び、学び、働く体験ができます。crewや地域住民は自分たちで作り上げた拠点を活用してイベントやワークショップを開催し、また参加することができます。またコワーキングスペースとしてリモートワークの拠点としても使用できます。• 解決する体験…空き家を含めた地域課題を解決する体験ができます。活動を通し、crewメンバー、地元住民、地元企業、行政、NPOなどつながりが生まれます。様々な分野がつながることにより空き家が、地域課題の解決を行うためのコミュニティ拠点となります。
SDGs経営に向けた自者の課題や悩み	—